

# 「家がいいね」 第213号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2022.2.1



1月の満月の夜ですが、今年最小サイズとのこと。その差には気付きませんが夕暮れは遅くなっています。「小さいものは可愛い」と庭の花を撮りました。一方、医療事件続き。報道を鵜呑しないで考えて欲しいです。

背景には奥深い孤独があるのでは

1月28日の朝のニュースでは、驚きました。若い在宅医が巻き込まれ殺されたのは痛ましい限りです。92歳で自宅で亡くなった母の蘇生を望む息子の気持ちから分らないでもありません。共に生活した家族の看取りは、無念さを心に耐えがたく持つものです。「一人残さないでくれ。これから、どうやって生きていくというのだ」という声が聞こえてきそうで、辛いです。

研修医の時は、家族や主治医の到着を長く待ち、心肺蘇生の手を緩められなかったのを思い出しました。今は蘇生機会もない看取りですが、家族をねぎらい共に御体に手を触れたいと思っています。



「死にたい」気持ちだが、なぜ「殺したい」に

12月17日、大阪のクリニック放火事件にも驚きました。援助側への「報復の標的置き換え」は、自分なりにたくても、結局なれない社会を攻撃対象として計画されたようで闇が深いです。幸せな普通の他人を道連れに、拡大自殺を試みるのは、模倣もあり社会全体の問題と考えます。

助けて！と言えない社会

社会的に孤立して経済的にも困窮する人ほど「助けて！」を言いません。「実は、」を受ける雰囲気を持ちたいものです。



濃厚接触者の哀しみ

市中感染は表口からは来ない。家族が拾うと皆が濃厚接触者となり行動制限が長期で大変です。濃厚接触者を感染者同様に扱い、助けるより遠ざける傾向は悲しいですね。風評被害と同じです。インフルエンザが猛威の時は、数も死者も桁外れに多いのに、家族内感染にも同情的でしたね。

## 濃厚接触者の定義と現在の待機期間



2022サラーマン川柳 推し!

「娘とは、アクリル板より 厚い壁」  
返句(そうなのか それで助かったね お父さん)

おじやる丸(ちっちゃいものクラブ)の唄

夢を描いて 高い空見れば  
届く気がして  
よけいに悲しくて

ぽーつ ぽーつ 雨が降りゃ

乾いた土に命が芽生え  
にっこり 花が咲く

まったり まったり まったりな  
急がず焦らず 参ろうか



オープニング曲 北島三郎「詠人」



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105

メール [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
<http://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可